

## 1. 国際連合 国際防災戦略事務局 (UNISDR) について

国連国際防災戦略事務局 (UNISDR) は「国連防災の10年 (IDNDR) (1990-1999)」の後継として2000年に設立された国連組織であり、持続可能な開発に不可欠な要素としての防災の重要性を高め、自然災害による被害・損失の減少、災害リスクの軽減を目指し、災害に強い国やコミュニティの構築を目的としている。人道分野および開発分野に防災の観点を取り入れるための総合的な取り組みを推進し、また、そのための触媒的役割を果たしている。災害後の緊急対応のみでなく、事前の予防・災害リスクの軽減に重点を置き、国際防災協力の枠組み構築、調整のための触媒的役割を果たすと共に、各国の防災政策実施を支援し、多くのパートナー機関と共に防災に関する国際的な指針の実施推進を行っている。

2005年1月に神戸において開催した第2回国連防災世界会議では、「兵庫行動枠組 2005-2015：災害に強い国・コミュニティの構築」(HFA)が、防災・減災に関する包括的な行動指針として採択された。そして、2015年3月に仙台において開催した第3回国連防災世界会議では、HFA実施による10年間の成果を踏まえ、後継枠組である「仙台防災枠組 2015-2030」が採択され、各国による実施が要請されるとともに、防災分野での国際協力をさらに推進するうえでの取り組みの中心となっている。

UNISDRは、国連防災世界会議の事務局を務めるとともに、2005年から2015年の10年間の国際的な防災指針「兵庫行動枠組 (HFA)」、また現在はその後継となる「仙台防災枠組 2015-2030」の実施推進、進捗状況モニタリング及び報告などを行っている。

UNISDR本部はスイス・ジュネーブ、その他、ニューヨーク、バンコク、ナイロビ、カイロ、ブリュッセル (ベルギー)、パナマ、ボン (ドイツ)、フィジー、神戸、インチョン (韓国) などに事務所を持つ。

UNISDR ウェブサイト: [www.unisdr.org](http://www.unisdr.org)

## 2. UNISDR 駐日事務所について

UNISDRは、2007年10月にUNISDR駐日事務所を神戸市に開設した。同事務所はUNISDRの役割である防災に関する国際的な指針の実施促進、及び国際防災協力推進のための活動をさらに強化・充実させるために開設された。特に、日本政府や日本を拠点とする各防災関連機関、ならびにアジアの防災関連機関との防災協力促進、パートナーシップを構築し、UNISDR アジア太平洋地域事務所 (在バンコク) などとの連携のもと、防災における国際協力をさらに推進することを目的にさまざまな活動を実施している。

## 3. 第3回国連防災世界会議と仙台防災枠組について

国連防災世界会議は、国際的な防災戦略について議論する国連主催の会議であり、第1回国連防災世界会議は1994年に横浜にて開催、第2回国連防災世界会議は2005年に兵庫県神戸市にて開催された。同会議では、2015年までの10年間の防災に関する国際的な指針である「兵庫行動枠組 2005-2015：災害に強い国・コミュニティの構築 (HFA)」が策定され採択された。

2012年国連総会決議において2015年に第3回国連防災世界会議を日本で開催することが決定し、2013年国連総会決議において会議日程及び開催都市 (仙台市) が決定した。

第3回国連防災世界会議は2015年3月14日から18日まで仙台市にて開催され、10年間のHFA実施を総括するとともに、その成果文書として、HFAを継承し、今後15年間の防災に関する国際的指針となる「仙台防災枠組2015-2030」を採択した。

仙台防災枠組は下記6つの項目から構成され、13の指導原則とともに、7つの地球規模の目標（ターゲット）と4つの優先行動という広範な事項を定めている。

- I. 序文
- II. 期待される成果と目標
- III. 指導原則（ガイディングプリンシプル）
- IV. 優先行動
  - 優先行動1：災害リスクの理解
  - 優先行動2：災害リスク管理のためのガバナンス・制度強化
  - 優先行動3：レジリエンスのための防災投資
  - 優先行動4：効果的な応急対応に向けた準備の強化とより良い復興
- V. ステークホルダーの役割
- VI. 国際協力とグローバルパートナーシップ

HFAが5つの優先行動を掲げていたのに対し、仙台枠組は4つの優先行動に再構成・整理している。特に既存の災害リスクの削減に加えて、新たなリスク形成の予防にも重点を置き、またHFAの採択以降、より認識されるようになった復興過程において防災・減災の取り組みを取り入れる「より良い復興（Build Back Better）」が強調されている。また、多様なステークホルダーの役割についても言及されている。

会議ウェブサイト：<http://www.wcdrr.org/>

（仙台防災枠組：[http://www.preventionweb.net/files/43291\\_sendaiframeworkfordrren.pdf](http://www.preventionweb.net/files/43291_sendaiframeworkfordrren.pdf)）

#### 4. 「国連世界防災白書」について

「国連世界防災白書」は、国連国際防災戦略事務局（UNISDR）が、2005年の国連防災世界会議・兵庫行動枠組（HFA）の採択を経て作成した世界規模の防災に関する評価報告書である。

2009年版「気候変動における災害リスクと貧困：より安全な明日のための今日の投資（Risk and poverty in a changing climate: Invest today for a safer tomorrow）」、2011年版「災害リスクを明らかにし、開発を再定義する（Revealing Risk, Redefining Development）」、2013年版「リスクの共有から価値の共有へ：災害リスク軽減のためのビジネス・ケース（From Shared Risk to Shared Value: The Business Case for Disaster Risk Reduction）」に続き、今年、2015年版「持続可能な開発に向けて：災害リスク管理の将来（Making Development Sustainable: The Future of Disaster Risk Management）」が発行された。

本白書の目的は、世界の災害リスクについて理解し、分析するための最新情報を提供することである。大量のデータに基づき、災害リスクの傾向とパターンを世界、地域、そして国レベルにおいて深く掘り下げている。同時に、130以上の政府が兵庫行動枠組（HFA）の実施の進捗についての自己評価に取り組み、国レベルの防災への取り組みについて、最も包括的に世界の現状を概観することに貢献しているという意味で画期的な報告書となっている。

国連世界防災白書：<http://www.unisdr.org/we/inform/gar>